

キラリ★中野のチカラ

中野市農協ぶどう部会



世代を超えて、新たな技術で日本農業賞大賞を受賞

日本農業の確立を目指し、意欲的に経営や技術の改革と発展に取り組み、地域社会の発展に貢献している営農集団を表彰する日本農業賞。

今回は、31年ぶり2回目の日本農業賞大賞を受賞した中野市農協ぶどう部会の皆さんにお話を聞きました。

○2回目の受賞

1985年度に「巨峰」への取り組みが評価され、日本農業賞「集団組織の部」大賞を受賞しました。しかし、その後は巨峰の需要が減り、生産者にとって苦しい時期になってしまいました。そこで、「シャインマスカット」の露地栽培を基本に独自の技術で長期出荷をし、「ナガノパール」や「種なし巨峰」などの新品种の販売拡大をしました。このような、積極的な取り組みがブドウの需要を大きく増やし、園芸産地の再構築や地域再生モデルになるというところで、今回の審査で大きく評価されました。

また、この賞を同じ団体が2回受賞した例はほかにないそうです。31年たつて次世代に交代し、新たな活動で賞をいただくことができ、中野市の農業の底力を全国に響かせることができたと思います。

ぶどう栽培農作業の支援者募集中

市内のブドウ栽培者の農作業をお手伝いしてくれる方を募集しています。農業の経験がない方でもできる作業です。

※募集説明会を4月中旬に行います。説明会日程など、詳しくは、35ページをご覧ください。



問い合わせ先
一般財団法人中野市産業公社
☎(22)2111 (内線303)

○今後の目標

「信州なかののブドウ」をお客さんに「また食べたい」と言っていただけのように、一歩踏み込んだおいしさを追求し、ブランド化していきたいです。また、若い生産者にも、どんどん新しいことにチャレンジしてもらい、一緒に中野市のブドウを発展させていきたいです。

○市民の皆さんへ

夢は、中野市をブドウの絶対的産地にすることです。そのために、技術開発をすることや、就農者を増やす努力をするのはもちろんですが、市民の皆さんの協力が必要です。農作業支援などで農業に関わってみませんか。私たちと一緒に中野市のブドウを盛り上げましょう。

広報クイズ

■今月のプレゼント

「キノコセット(エノキタケ・エリンギ・ブナシメジ・ナメコ)」…2人

問題

杉浦太陽さんが本紙で紹介している料理レシピは何でしょう？

「太陽流●●●●●」

クイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、世帯主名を記入の上、今月の広報で参考になった記事、今後知りたい情報などをはがきに書いて、次の宛先までご応募ください。

締め切り 4月28日(金)必着

※当選はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

先月号の答え 中野市と音楽姉妹都市提携をしている2つの市はどこでしょう？

答え「大分県竹田市と宮城県仙台市」

383-8614

(住所記載不要)

中野市庶務課

秘書広報係 行

住所・氏名・年齢・電話番号・世帯主

市民リレー元気の輪

No.28

藤牧万三さん
からのご紹介



○自己紹介

生まれは和歌山県で、高校卒業後、就職のため上京しました。そこで夫に出会い、41年前に夫の実家である中野市に移り住みました。

36年前から水道検針員をやっています。子どもが小さいときは、仕事の時間を自由に決められる検針員がよいだろうと始めました。最初は、自分の住む地域だけを担当していましたが、検針員の人数が減り、家から離れている岩井区など地理が全く分からない地域も回るようになりました。知らない場所ばかりで、戸惑いはありましたが、多くの市民の方と知り合う良いきっかけができました。また、よく歩く仕事なので、じっとしてられない性格の私に

は、合っている仕事です。

趣味でゲートボールをやっています。年に10回以上大会に出場しており、チームで参加する全国大会では、鹿児島県や徳島県に行ったこともありました。遠方の大会に参加するときは、仲間たちと観光を計画して、競技以外に旅行も楽しんでいきます。

○元気の秘訣

家でじっとしていないで、体を動かすことです。私は、人工股関節の手術をする前に、低下していた右膝の筋肉をゲートボールなどの運動で続けたことよって、医者も驚くほどに回復させました。そのおかげで手術後もすぐに動けるようになりました。また、足りない栄養をサプリメントで摂取しています。ブルーベリーのサプリメントを飲み続けたためか、立った姿勢のまま検針ができるほど視力が良いです。

○おらほの自慢

伊那市高遠の桜は有名ですが、中野市高遠の桜もとてもきれいです。4月中旬ぐらいに高遠の更科川沿いにある19本の桜が満開になります。天気の良い日には、桜の木の背景に北信五岳が見えて、とてもきれいですので、ぜひ見に来てください。



ながい ひさみ さん (高遠)

池田市長の

わくわくレポート

vol. 41



中野市の味わいと 仕掛けづくり

地方創生の動きは、全国津々浦々、各自治体が「わがまち」の魅力創出と発信にそれぞれ工夫を凝らし取り組んでいる。中野市においても、地域の魅力を内外に発信し、多くの方に中野市を知っていただくことで、消費拡大に繋げ、地域経済の活性化を図るため、これまで様々な取り組みを展開してきた。

人口減少が加速度的に進む中で、域外からのキャッシュの獲得拡大が地域を支えるために重要であることは異論のないことであろう。中野市にとって雇用吸収力の高い農業の活性化は一つの重要な課題であり、加えて観光の振興はこれまで以上に重要な政策課題だ。観光の重要な三大要素として、豊かな「自然」、深みのある「文化」、そして「食」があり、

中野市にはこの三大要素を満たす資産・資源が十分にある。

今般、中野市の「おいしい!!」を内外に広めていただくため、俳優の杉浦太陽さんに中野市の「食の大使」に就任いただいた。杉浦さんには、NHKの「キッチンが走る!」で中野市を訪れていただいたことが一つのご縁となり大使に就任していただいたが、これからは「食の大使」杉浦太陽さんの力を借りながら、中野市の「おいしい」「うまい」をさらに強力で創出し、推進することが大切であり、私の使命であると思っています。

先日、横浜から訪れた友人が「中野市の食はうまいよね」と、何気ない会話の中でしみじみと話したことが忘れられない。食材という点では、無いものがないくらいに中野市には何でもある。果樹王国として、キノコ王国として、はたまた食肉の生産秘めた土地である。これらを総合して「おいしい」を如何にコーディネートするか。杉浦太陽さんの食の大使就任を機に、市長として、わくわくしながら政策展開に思索をめぐらせている。

